

2009年3月期第7期事業報告書 (2008年4月1日～2009年3月31日)

株式会社LTTバイオフーマ
証券コード：4566

日本発、世界に冠たるバイオベンチャーでありたい。

経営理念

- ▶ 画期的な新薬・医療技術の開発で人類の福祉と健康に貢献する
- ▶ 日本の生命科学技術および産業の活性化に寄与する
- ▶ 常に時代の最先端を目指す

(単位：百万円)

	連結	単体
売上高	1,261	24
営業損失	907	966
経常損失	708	617
当期純利益又は損失	△14	49

株主の皆様へ



株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様で昨年度は、上場以来初となる単体損益の黒字化を達成し、本年度は連結でも黒字を見込んでおります。研究開発の現状ですが、既に臨床で効果が確認されているPC-SODとAS-013については、ライセンス活動を積極的に行っています。一方基礎研究段階にありますSRGやナノPGE1について

では、熊本大学での研究によりその最終的な製剤がほぼ完成しました。また、副作用の少ないNSAIDなど新たにパイプラインに加わった製剤もあります。このように当社の中核である創薬事業の研究開発は順調に進んでおりますので、今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長 水島 徹

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第7期は新経営体制のもと、創薬事業ならびにEIP事業に全力で取り組むとともに、経営課題として掲げた筆頭株主の異動対策、調剤薬局事業を営む子会社株式の売却やGC注記の解消に向けた諸施策などを実行して参りました。今後も創薬事業におけるライセンスアウト、EIP事業におけるEIP製品の地位確立を通じて企業価値の更なる向上を図って参りますので、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長 鈴木 巖

2009年3月期の取り組みと業績

2009年3月期は、新経営体制のもと、様々な改革に取り組み、今後の成長へとつながる多くの成果を残すことができました。

●上場来初の単体損益黒字化

費用の節減、子会社株式売却、受取配当金収入等が寄与し、売上高24百万円、当期純利益49百万円となり、上場来初の単体損益黒字化を実現。

●100%出資子会社ソーレの株式譲渡完了

調剤薬局事業を営む(株)ソーレ株式の株式譲渡により503百万円の特別利益を計上。

●組織・事業の再構築と本社移転

創業とEIPに事業を集約し、本社移転を含む大幅な合理化を推進。

●筆頭株主異動実現への取組み

創業事業において当社と協力関係にある北京泰徳製薬有限公司が、当社元筆頭株主の保有する株式を取得することとなり新たな筆頭株主へ。

●継続企業の前提に関する注記の解消

当期における単体損益黒字化及び安定的なキャッシュインと次期の損益及び営業キャッシュ・フローの黒字見込み等により早期解消を実現。

上記の結果、2009年3月期の連結業績は、売上高1,261百万円、当期純利益△14百万円となりました。



新本社：汐留ビルディング

2009年2月16日
愛宕グリーンヒルズMORIタワー
より本社移転

〒105-0022
東京都港区海岸一丁目2番20号
汐留ビルディング3F

<最寄>
J R 浜松町駅
地下鉄 大門駅

創薬事業

当社は、医薬品を体内の必要な場所に、必要な時間、必要な量だけ送達する技術であるDDS（ドラッグデリバリーシステム）医薬品の開発を主力事業としております。

特に、既に臨床で使われている医薬品にDDS技術を用いて改良することで、開発期間を短縮し、安全性の高い新薬の開発をコア技術として取り組んで参りました。

こうした中、研究開発については、主に基礎研究において、熊本大学薬学部付属創薬研究センターと密に連携しており、当社会長の水島徹が、同大学教授ならびにセンター長を兼務しているなど、確立された研究体制を有しております。

現在当社では、DDS技術を中心とした6つのパイプラインを有しており、これらの新薬開発のための研究開発並びにライセンスアウトに向けた活動を行って参りました。

名称	対象疾患	特徴
PC-SOD [ピーシーエスオーディー]	間質性肺炎 潰瘍性大腸炎	現在他に有効な薬剤はなく、上市が期待されています。 新しい作用機構の薬が求められています。
SRG (G-CSF徐放性製剤より名称変更) [エスアールジー]	抗がん剤による白血球減少	投薬回数が減少することで患者様の負担が軽減されます。
AS-013 [エーエスゼロイチサン]	末梢血管病変	慢性動脈閉塞症をターゲットにした第2世代のPGE1製剤です。
ナノPGE1 [ナノピージーワン]	末梢血管病変	1回の投与で2週間効果が持続する第3世代のPGE1製剤です。
NSAID [エヌエイド]	炎症性疾患	副作用が少ない新しい非ステロイド系抗炎症薬です。
HAp-IFN [ハップインターフェロン]	C型肝炎	投薬回数が減少することで患者様の負担が軽減されます。

中でも、既に第Ⅱ相臨床試験まで進んでいるPC-SOD、AS-013については、国内外の複数の企業とライセンスアウト交渉を実施しているほか、SRGについても非臨床研究段階ながらライセンスアウトや、大手製薬企業との共同研究に向けて国内外で5社の企業と秘密保持契約を締結の上、交渉を進めております。

EIP事業

EIPとは、電子ビームを利用して異種金属を合金化し、金属表面を改質化する技術であり、これによって

- 1) 硬度を上昇させる
- 2) 摩擦係数を低下させる
- 3) 耐腐食性を増強させる

といった効果を生み出す、世界唯一の技術として基本特許の国際出願を完了しております。

昨年10月に100%出資子会社(株)マシンパーツ販売を設立し、主力製品として、医薬品の錠剤を成型する打錠機と呼ばれる機械部品にEIP加工を施した「EIP杵」の受注を開始いたしました。

こうした中、40社以上の製薬企業を中心にEIP杵の無償レンタルサービスを行い、好評をいただいた他、打錠機のトップシェアメーカー菊水製作所等数社と販売委託契約を締結し販路を充実させるなど、着実に事業拡充を進めております。また、EIPは、その特徴を活かして、医療機器、半導体、スポーツ用品、工業用品など、多様な分野から引き合い、試作依頼をいただいております。

●EIP杵とは

EIP加工によって摩擦係数を低下させることで、錠剤を成型する際に、粉体が打錠杵の表面に付着するスティッキング現象を回避することを可能とした打錠杵です。

通常、ステアリン酸マグネシウムという滑沢剤によってこの問題を回避しますが、錠剤硬度の低下、薬物吸収性の阻害等の欠点に伴います。EIP杵は、この滑沢剤を配合しなくてもスティッキング現象を起こさず打錠できる画期的な打錠杵です。



EIP打錠杵



打錠機にセットした状態

2010年3月期の見通し

2010年3月期は、創業事業におけるライセンスアウトとEIP事業の拡充をはじめとした施策等により、連結損益ならびに、営業キャッシュ・フローの黒字化を見込んでおります。これを実現するため、以下の施策に取り組んで参ります。

●創業事業

AS-013、PC-SOD、SRGを中心として、パイプラインのライセンスアウト実現を目指すとともに、大手製薬企業との共同研究の実現に向けて交渉を行っております。

●EIP事業

100%出資子会社マシンパーツ販売によるEIP杵の本格展開ならびに、EIP技術の応用による多分野への展開を実現することでEIP事業の拡充を図って参ります。

●北京泰徳製薬との連携強化

既に発表を行いました北京泰徳製薬有限公司との資本・業務提携によるシナジーの最大化を図るため、創業における研究開発のみならず、EIP事業での協力や、新たな事業分野での取り組みを模索するほか、これらを円滑に実現するための人材交流などで、同有限公司との連携を強化して参ります。

●管理体制の強化と法令遵守の徹底

社内管理体制の強化をはかり、法令遵守を徹底するとともに、積極的な情報開示の励行によって投資家やメディア等とのリレーションを強化して参ります。また、上場に関する猶予期間の解除ならびに訴訟の解決に尽力して参ります。

以上の施策のもと、2010年3月期の連結業績は以下の通りに見込んでおります。

2010年3月期の連結業績見通し

(単位：百万円)

	第2四半期累計見込み	通期見込み
売上高	52	150
営業損失	238	401
経常利益	164	3
当期純利益	173	12

財務データ（連結）

〔連結貸借対照表（要旨）〕

（単位：千円）

科 目	第7期 (2009年3月31日)
資産の部	
流動資産	803,030
固定資産	738,153
資産合計	1,541,184
負債の部	
流動負債	263,303
固定負債	14,993
負債合計	278,297
純資産の部	
株主資本	1,262,887
純資産合計	1,262,887
負債純資産合計	1,541,184

〔連結損益計算書（要旨）〕

（単位：千円）

科 目	第7期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)
売上高	1,261,015
売上原価	931,880
売上総利益	329,134
研究開発費	554,223
その他の販売費及び一般管理費	682,569
営業損失	907,658
営業外収益	224,999
営業外費用	26,334
経常損失	708,992
特別利益	607,435
特別損失	5,999
当期純損失	14,084

〔連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）〕

（単位：千円）

科 目	第7期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 359,318
投資活動によるキャッシュ・フロー	540,010
財務活動によるキャッシュ・フロー	55,000
現金及び現金同等物の増減額	235,691
現金及び現金同等物の期首残高	411,360
現金及び現金同等物の期末残高	647,052

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場金融商品取引所	東京証券取引所
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ltt.co.jp/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他 のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞 に公告いたします。)

注記事項

※本資料に記載した予想数値は、4月30日の決算発表時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により記載のものとは異なる場合があります。

当社のホームページもぜひ併せてご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.ltt.co.jp/>



トップページ



社長ブログ

 **LTT Bio-Pharma**

株式会社LTTバイオフーマ

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号

汐留ビルディング3階

TEL 03-5733-7391 FAX 03-5733-7397

証券コード：4566



ミックス品

FSC登録林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert. no. S-COC-2499
© 1996 Forest Stewardship Council